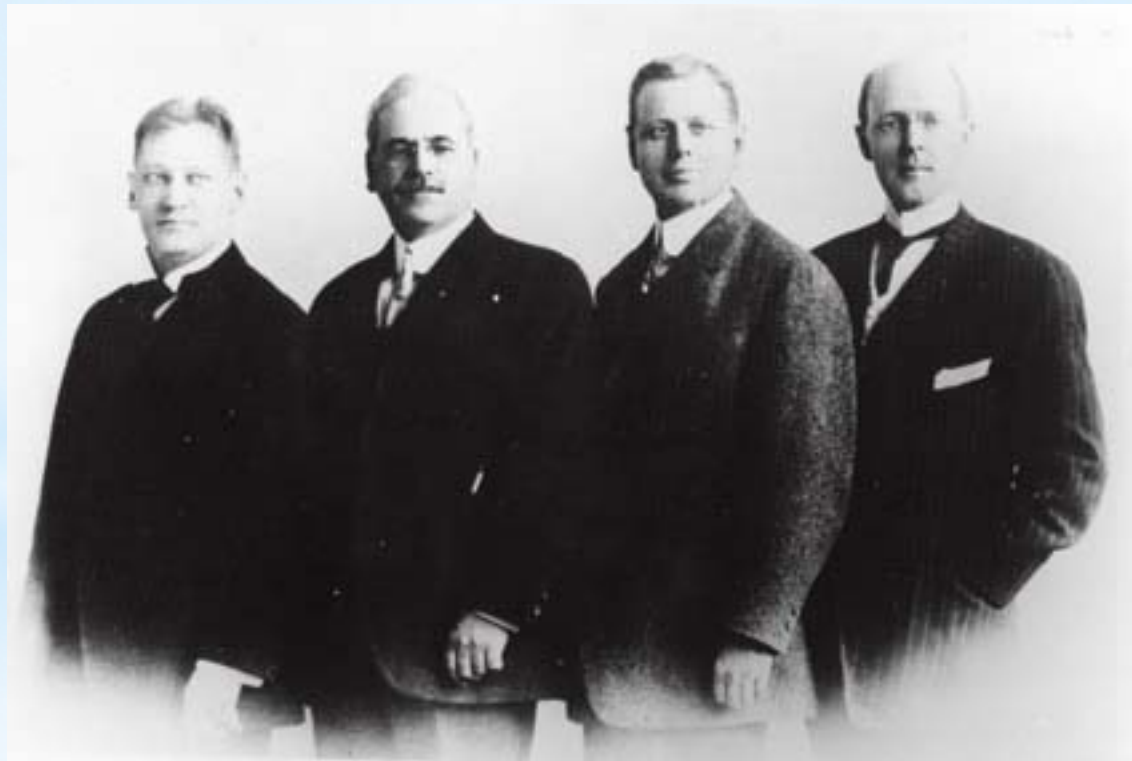


# ロータリーの歴史に学ぶ



職業奉仕の理念と歴史を紐解く

RID2720 職業奉仕セミナー

2020.11.21

RID DG (2017~2018)

永田 壮一

1905～1927

ロータリーの黎明期：恐慌とアメリカの暗黒時代・市場経済至上主義、アメリカン・ドリーム  
(時代背景)

職業倫理の欠如→倫理概念→友情と寛容→ロータリーの理念の確立

---

1928～1986 ロータリーの発展期

恐慌から第二次世界大戦→東西冷戦→世界経済バブル→貧富の格差

1987～2004

世界の変化：ベルリンの壁崩壊 ソ連の民主化 世界経済の成熟化 新興国の台頭 経済の二極化  
多様化の時代への移行

---

2005～現在 ロータリーの変化期

国または地域の倫理観・地域紛争の遷延化・テロリズム・移民  
職業倫理と人道的な倫理観・博愛主義と民族融和主義

---

## ロータリーの歴史に見る職業奉仕の変遷

- 1905** 年 2月23日、シカゴ・ロータリークラブ創立
- 1907** 年 ポール・ハリスがシカゴRCの会長に就任  
親睦互惠に対し、公衆便所設置運動等の社会的奉仕活動の気運が起こる。
- 1908** 年:アーサー・F・シェルドンがシカゴ・ロータリークラブに入会。情報拡大委員長として自ら創案した職業奉仕理念を導入。
- 1910** 年:ロータリーの綱領制定
- 1911** 年:全米ロータリークラブ連合会(国際ロータリーの前身)ポートランド大会でアーサー・F・シェルドンの提唱による職業奉仕のスローガン  
“He profits most who serves fellows best.”  
がロータリー大会宣言の結語に採択される。
- 1912** 年:ロータリーの綱領改定
- 1915** 年:全米ロータリークラブ国際連合会サンフランシスコ第6回年次大会にて「ロータリー 道徳律」を採択。 職業人としての実践道徳の指針とされた。  
(→1951 年に廃止) ロータリーの綱領改定。  
標準定款・模範細則採用  
ガイ・ガンディカー「ロータリー通解」発刊

1917 年：ロータリー財団設立（アーチ・クランプ）

1922 年：国際ロータリー(RI)に改称

ロータリーの綱領・定款・細則改正

R.I.B.I. に対して地域運営が認められる。

1923 年：セントルイス国際大会で「決議 23-34」を採択。

「綱領に基づく諸活動に関するロータリーの指針」として“service, not self”と“He profits most who serves best.”が併記された。

\*9月1日に発生した関東大震災に対しRIより見舞金を送られる。

1927 年：「ロータリー道徳律」は全世界の有用性に関し意見の一致を欠くとの理由で改訂。翌年「綱領」に重きをおくことに改められる。

ベルギー・オステンド大会で「四大奉仕」が組織化され、イギリスの強い要望により職業奉仕は“Vocational Service”と命名されて四大奉仕の一つに組み込まれる。

それまでは「Business Method 委員会」が職業奉仕を担当していたが、この時の改名により以後「職業天職論」が主流となる。





Arthur Frederick Sheldon

1918年国際RC連合会の定款のthe Ideal of SERVICEは He profits most who serves bestの（商業サービス）だったが1921年の定款第4条に別に新しく「the Rotary ideal of service」が出現。  
2つのIdeal of Serviceの意味は??

R.I.B.Iのパスカル会長：Four Avenues of Service（ロータリー活動の4路線）

- ① R.I.B.Iのprofitに対する考え方の相違
- ② 商業サービスが人道的サービスに合致しない
- ③ 複雑な宗教的な考え方（ピューリタンとカソリック）
- ④ Vocational Serviceに包括する宗教論争

ロータリー活動の4路線  四大奉仕部門

シェルドン排斥運動。1930年退会。1931年「倫理訓」領布禁止。  
1935年、定款から商業サービスが排除されServiceが一本化。  
シェルドンの没年も1935年：何かの因縁??

ロータリーの基本的な理念は、1905年から1927年までにほぼ確立されました。しかし、順風満帆ではなかったようです。

理論派と実践派に分かれた論争。→「決議23-34」

エドガー・アレン（Edgar Allen）

1918年オハイオ州エリリアRCに入会。身体障害児救済のために全米身体障害児協会を設立。積極的に社会奉仕活動を実践。こういった、行動実践派とロータリー理論派との間に軋轢が生じた。

理論派；ロータリアンの心に「奉仕の心を形成」することがロータリーの本旨。

実践派；「奉仕活動の実践」こそがロータリアンの使命。

（ロータリー崩壊の危機）

しかし現実には、「商業サービス」（シェルドン主導）と「人道的支援」（ポールハリスが支持）とのロータリー活動の路線対立であった。

決議23-34：ロータリーの目的に基づく諸活動に関する方針

1926年に「社会奉仕に関するロータリーの方針」へ変更

それでは、決議23-34の内容は、どのようなものでしょうか？

「個々のクラブにおいて事実上の完全な自治を認めるものでした。」

「他方において、一つの行動が、他の行動を無視すべきではないことを厳に戒告したものでした。」

「すべての考慮を職業奉仕に集中しようとする思想は、理論的帰結において一つの事態を想定するものであった。実業道徳の向上を唯一の目的とする世界的大同団結なるものは、単にそれ自体大きな価値を持つだけでなく、各国間の親善増進に寄与する価値は大きい。しかしロータリーは創立以来、その若干の目的の中に特にある優位を許与したことはかつてなかった。」

## ロータリークラブの設立時の思想

前にも述べた「共通の仕事に協力せよ。・・・・」

**\* 一業種一人の大前提**  **Vocational Serviceへ**

「彼らの間には宗教上 及び 政治上の議論は友好を妨害する恐れありとして、これを禁じていた。」

(P.ハリスの祖先はアイルランド・スコットランド人。また、第一次のロータリアンの多くがユダヤ人であったため、キリスト教各宗が存在。)

「よく「知り合う」ということが、大切な中間過程であり、それは、迷える人の心を治し、無益な猜疑を解消して概ね友愛にまで成熟する。」



ロータリーの目的：奉仕の機会として知り合いをひろめること。

ロータリアンは友愛と寛容の精神を持って友情を育む仲間 (Fellowship)

**\* 友情を培い友愛の精神を鼓吹する**  **Club Service**

**ロータリークラブに最初から存在した、職業奉仕とクラブ奉仕**



## 1927年以降の職業奉仕に関する歴史

**1950** 年:デトロイト大会「決議50-11」 ”Service above self”と  
“He profits most who serves best”が同格でロータリー  
の公式モットーに決定。

1979 年:職業奉仕週間新設

1987 年:RI職業奉仕委員会復活

1989 年:「ロータリアンの職業宣言」

“Service above self”を第一モットーに”He profits most  
who serves best”を第二モットーとした。

**2007** 年:標準ロータリークラブ定款に「四大奉仕部門」が追加。  
DLP CLPの導入

2010 年: 手続要覧に「決議23-34」を継続保存と決定。

また、「四大奉仕」→「五大奉仕」となる。

2011 年: ロータリアンの職業宣言→ロータリーの行動規範

2014 年: 「ロータリーの行動規範」の第5項を削除

2016 年: E-クラブとクラブの垣根がなくなる。

2019 年: ローターアクトクラブがRIIに加入

---

それでは、職業奉仕とは何？

標準ロータリークラブ定款 第6条 五大奉仕部門から読み解くと  
「自らの職業で奉仕の理念を実践し、ロータリーの理念に従って  
事業を行い、その中で得た職業上のスキルを奉仕事業で役立てる  
事」とあります。

国際ロータリーの第一標語

**SERVICE above SELF** （超我の奉仕）

国際ロータリーの第二標語

**One Profits Most Who Serves Best.**

（最もよく奉仕する者、最も多く報いられる）

**「奉仕の理念」 = 二つのロータリー標語**

**「ロータリーの基本理念」 = 手続要覧の 1.ロータリーの基本理念 に書かれた「決議23-34」「4つのテスト」**

**「ロータリーの目的」「五大奉仕部門」そして、ロータリー章典に書かれた「青少年と接する際の行動規範に関する声明」**

**「国際ロータリーの標語」「国際ロータリーの使命」「ロータリー財団の使命」**

**なァーんだ！「奉仕の理念」が解れば「職業奉仕」は解るんだ。**

しかも、「奉仕の理念」は二つの標語だし・・・簡単、簡単

そうなんです！ では、「超我の奉仕」とは？

超我の奉仕（Service above Self）：フランクリン・コリンズが演説で言った言葉です。当初は「Service, not Self」でした。米山梅吉翁は「奉仕第一、自己第二」と訳されました。また田中作治元RI会長は「利他の心」と話されました。Paul Harrisは著書「This Rotarian Age」で「マタイの福音書」の黄金律を度々引用しています。

つまり、超我の奉仕は自らの利益など一切考えずに常に相手の利益（金銭ではない）の事を考えて行動する事ではないでしょうか？

職業上の「奉仕の理念の実践」とは、自らの利益は考えずに常に先ず顧客の利益を考えて仕事をする事なのです。



そうして、「4つのテスト」に照らし合わせて行動し、自らの職業で、あるいは同業者の倫理観を発展させていけば、シェルドンが言った「One profits most who serves best」（最も良く奉仕するもの、最も多く報いられる）通りになると思います。

更に、五大奉仕部門の第2に書いてあるように、クラブにおいては、そうした職業奉仕の実践で得られた職業上のスキルやノウハウをクラブで行う奉仕活動に活かしていく事を推奨しています。

文字通り、職業奉仕こそがロータリーの金看板と言われる理由がここにあります。

**「職業奉仕」こそ唯一、世界に発信できるロータリーの崇高な理念なのです。**

奉仕の理念（Ideal of Service）とは何を意味するか。

『ロータリー解説書』の著者はこれに関する種々の言説を引用している。それぞれ言葉は異なるが精神は一つである。

エジプト人曰く「己の欲する善を他人のために求めよ」。ペルシャ人曰く「汝施されんと欲する所を施せ」。仏陀曰く「人は己のために欲する福善を他人のために求むべきものなり」。孔子曰く「汝の欲せざる所を他人に施す事なかれ」。最後にナザレのイエス曰く「汝他人より与えられんと欲する全てを他人に与えよ」。

ポール・P・ハリス（1935年）





ご静聴ありがとうございました。